



MONOHO PROJECT



北海道の産業創成期に造材業を興した松原産業株式会社は、時代の求める造材・製材事業を行う一方、未来を見据え、循環型森林保全にも一貫して取り組んできた。持続性の高い資源活用と、道産材の価値を一層高める両面から、主力商品のひとつであるフローリングの分野で、デザインにこだわったものづくり事業を行った。

素材もデザインも美しいフローリングで北海道の木材の魅力を伝える

得意分野のフローリングで北海道らしい自社製品を

松原産業の代表的製品である、道産無垢材のフローリング。その原点は、山で木を切り出す造材業にある。作業の中で生じる端材を活かすために二次加工が行われてきたが、中でもフローリングは戦後から高度成長期の建築に欠かせない重要製品だった。同社では昭和30年代に本州企業から技術移入し、昭和39年、東京オリンピックパレーボール競技会場となった代々木体育館のフローリングを納入するなど長い実績があり、自社生産のフローリングは全て無垢材だ。現在の国内市場では、輸入製品や輸入材の製品が主流だが、国産無垢材を用いたデザイン性の高い製品は限られている。そこで同社は、補助金を活用して新しい道産無垢材フローリング製品の自社開発に取り組んだ。

デザイン実現のため設備投資に踏み切る

新製品開発には、道産材、特に無垢材の魅力を広く知ってほしいという強い思いもあった。そこで無垢の木目を活かす様々なパターンの中から、寄木貼りのフレンチヘリンボーンや正六角形などを採用した。これらのパターンは伝統的なものだが、道産ナラ材を用いること、さらに精度の高い加工を行うことで仕上がりはより美しくなる。また施工場所に合わせたきめ細かな提案も、自社加工であれば可能だ。この加工に向け、補助金を活用してCNCルータ（数値制御加工機）を導入した。同機のCAD連携機能によって加工精度が上がり、高い再現性と少量多品目加工が実現。組み方によって表情を変える短尺パーツなども含む、個性豊かな道産無垢フローリング製品が完成した。

美しい木床の提案から道産材の価値訴求へ

この新製品は現在、資材業者やデザイナーに向けて提案中だ。また、「この製品を見ていただくことで、“こういうことができないか”という逆提案を受けることが非常に増えました」と、代表取締役の松原正和氏は言う。製品開発の経験は、社内で新しいアイデアの種を生みはじめた。デザインの広がりはもちろん、それに応える加工技術の向上など、次のものづくりへの可能性を感じさせるものだ。「木は人に優しい再生産可能な素材。その価値の発信は産業を維持し、未来の環境保全にもつながります」（松原氏）。製品化の背景には、そんな思いも込められている。



▲高精度のカッティングがデザインの再現性をアップした ▲



代表取締役 松原 正和 氏

Interview 我が社の強み

北海道の森林を
活かして守るのが
私たちの使命です

創業時から森を育ててきた企業文化

私たちは北海道で造材業を始めた創業以来、半世紀にわたって森林資源の再生と有効利用に重きを置いてきました。社有林は現在、全道13か所4200ha。間伐や林道整備を行う一環として、昨年からアオダモの植林も始めました。弊社の創業者は、「2万町歩（ha）の社有林があれば将来も循環していけるだろう」と書き残しています。昨年にもご縁があり山林を1か所購入したのですが、まだまだ目標には及びませんから、そこは後継者に託さなくてはなりませんね。山林というのは、すぐに切れる木があるわけではなく、地ごしらえをし、針葉樹広葉樹のバランスを見ながら木を植えて手入れしてやっと資源になる、忍耐の要る仕事です。それでも森林がなければ木材はない。こうした“持続性の発想”が生まれながらに備わっていることが、弊社のひとつのカラーといえるでしょう。

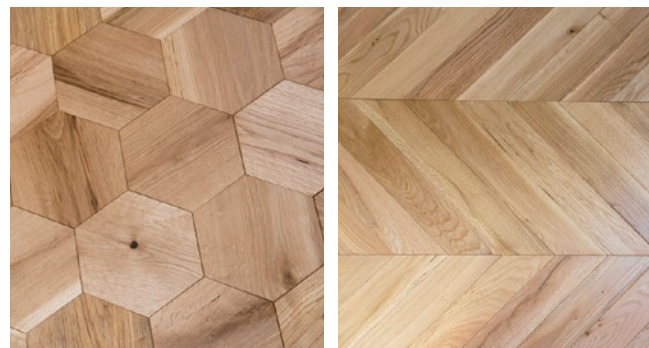
木材を活かし、高品質の二次製品を製造

道産無垢材のフローリングは、長年取り組み、認知されている、いわば弊社の顔ともいえる製品です。今回の事業では従来にないパターンを使ってより美しいデザインを目指しましたが、これは接着剤を含まない無垢の木目でなければ表現できません。そこで原料となる材が重要になりますが、これは商社にもお願いしながら、苦心して集めています。幸い弊社には木材部があり、貴重なイタヤ、ナラなど原木の活用されていない部分を活かした製品づくりが可能です。デザイン面では、グラフィックスプリント事業部が今回のフローリングにも

様々なアイデアを出してくれました。既存の発想にはない提案、例えば組み上げた後でプリントを施す、色付きのパーツを組み合わせるなどといったアイデアには、技術的にも応えていきたい。これも価値創造の一環と考えています。

人と環境に優しい事業で、安心安全規格を取得

森林を守ることは、環境保護にも貢献しています。生活者の皆様にお伝えできる機会は限られていますが、林業全体にこうした価値が付随していることは伝えていきたいと考えています。目に見えるかたちとしては、木質バイオマス工場があります。端材、間伐材のチップ加工を行い、現在フローリング製造工場を含む2工場が100%バイオマス燃料に変換済みです。製造については、循環型産業に与えられる「グリーン購入法」事業者認定、また環境負荷が低く環境保全に役立つ製品を認定する「エコマーク」を取得。特にフローリングは無垢にこだわり、全製品がJAS認定工場製のF☆☆☆☆（ホルムアルデヒドの発散が極めて少ない製品）対応品で、シックハウス問題への対策も万全です。



▲CNC機による精密なカッティングが、木目の美しいデザインを実現した

Vision

道産材の可能性を広げたい

開拓期に北海道へ導入されたカラマツは節が多く、かつては加工しにくい材でした。しかし今では価値観が変わり、弊社でも目の美しさを活かした製品化を行っています。北海道のカラマツのルーツ、長野県で行った物性試験では、強度と加工性の両面で集成材の可能性が示されました。全国の名だたる森林材木自慢の府県には、製材と木造建築の技術を集めたアイコン的な建物がある。例えば「松本ドーム」や「出雲ドーム」など、柱のない大空間の建築物を視察すると、私たちも道産材の可能性を感じさせられます。北海道でも木材の技術を一層大切にし、広めたいと考えています。

Company Data

松原産業株式会社

☎ 0123-72-1221

🌐 <http://www.matsubarasangyo.co.jp/>

●所在地／〒069-1511 夕張郡栗山町中央1丁目1番地1（工場：夕張郡栗山町旭台23番地100、支店：東京、営業所：大阪、仙台、札幌） ●FAX. / 0123-72-5802
●設立 / 1948年4月14日 ●代表者／代表取締役 松原 正和 ●資本金 / 8,850万円 ●事業内容 / 木材部、営業部、建設部、建材部、グラフィックスプリント事業部